

information!

IFBLS 学会<インド>参加者募集案内

= パネリスト 1 名、student forum 参加者、ポスター演者、口演演者募集 =

2008 年 8 月 24 日から 28 日まで、インドの New Delhi において 28TH World Congress of Biomedical Laboratory Science が開催されます。

インドの臨床検査技師会<AIIMT>では、演題および参加者を募集しています。

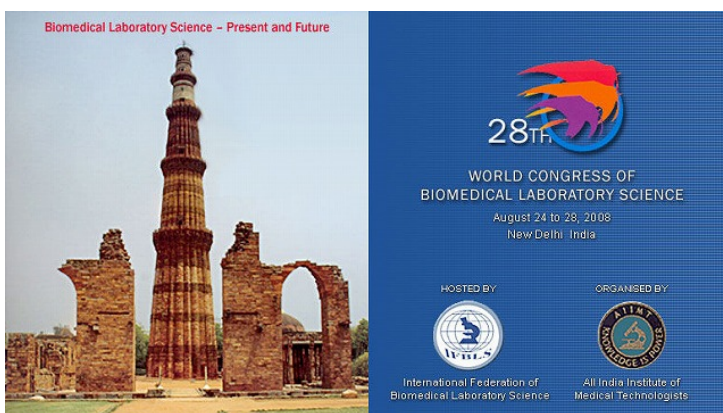
- ◇ 一般演題は口演とポスターとに分かれ、前回韓国での国際学会でも好評であった“student forum”も企画されています。
- ◇ Panel discussion が 2 セッションが予定されており、“BLS Problem in Asia”と題されたパネルの speaker は決定しておりません。

※ 希望されるかたは JAMT 事務局までお問い合わせください。(注：招待ではありません。Discussion は理事の小松がお手伝い致しますが、英語の能力は必要です。)

- ❖ 登録料は 2008 年 2 月 24 日までは 350U.S.ドルとなっており、それ以降は値段が上がります。
- ❖ 登録はそれまでに済ませることをお勧めします。
- ❖ 抄録の締め切りは 2008 年 2 月 1 日です。
- ❖ 国際学会の Web は随時更新されますので、詳しくは HP で確認して下さい。
<http://www.ifbbs2008aiimt.org/>
- ❖ 日本旅行社のツアーも企画予定です。
- ❖ 日本からは会報 JAMT、JAMTIS、医学検査等に情報を掲載しますのでご覧ください。

【IFBLS 理事 小松京子】

**インドにて皆様にお会いできる
ことを楽しみにしております。**



地球温暖化を考える

地球温暖化の深刻な状況を伝え、訴える報道が多くなっている。今年、5月に国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第三作業部会が報告書をまとめた。それによると、第一作業部会では、地球温暖化は“人類の活動”が原因であるとし、第二作業部会では、その影響は“地球規模”で深刻であるとしている。第三作業部会では、その防止対策の具体案を示している。それにより、報告書がまとまったこととなる。

- ◇ 第一作業部会…<科学的根拠>温暖化の現状と根拠を提示。これは、2007 年 2 月のパリでの会議で審議され承認されている。
- ◇ 第二作業部会…<人類・自然への影響>海面の上昇など温暖化への影響は大きいと報告。同年 4 月のブリュッセルの会議で審議・承認。
- ◇ 第三作業部会…<防止対策>温暖化ガス削減は適切な投資により可能であることを報告。同年 5 月バンコクでの会議で審議・承認された。
- ◇ 総合報告…同年 11 月バレンシアの会議で審議・される。
この評価報告書は、今回で第 4 次を数え、1990 年

を第 1 次とし、1995 年、2001 年に次ぐものである。

我々の身の回りのモノは、殆ど人間が作り出すものである。しかし、人の手では作れないモノに自然環境や地球がある。自分たちの生活を便利にするために環境を破壊してきたツケであろう。地球環境を保護しながらモノを作る智慧を作るのが先であり、それも人間でしか出来ないモノである。この温暖化は「感染症」にも深刻な影響を与えている。感染症を媒介する蚊をはじめネズミや時として可愛い小鳥でさえ人類にとっては悪い影響を与える。今彼らは、その生息域を広げている懸念が感じられる。東南アジアを北限とした蝶がすでに茨城県まで足を伸ばしているのが発見されている。

今や、微生物検査の現場では、若い世代は赤痢菌を代表とする同類の伝染病菌はみたことが無いであろう。感染症を撲滅させたためと考えると決して悪いことではないが、近い将来“東南アジア化”するであろう日本の環境においては、これら“悪”を見過ごす結果となる。これは、将来に“負の遺産”を残すなどと言っては行かない…まさに“破壊の遺産”を繋げる要因となるのである。検査が世に出た過去に戻り、リサイクルなどの小さな事からはじめる必要がある。不便さを感じることも…無駄ではない良いことかも知れない。